



小倉遊亀《岩菲と白い壺》1985年頃

## ことば 116

画家は5年に一度生まれ変わらなければならない。  
一から出直せ、それで一枚の葉が手に入ったなら、  
森羅万象すべてが描ける

小倉 遊亀

## 桐生曼荼羅—建物編

田中 淳

大川美術館は、ご存知のとおり松本竣介の「街」(1938年)という100号大の作品を所蔵している。透明感のある青緑の画面に、硬い線で街の建物、人間たちが鳥瞰的に、そして様々な視点から生きいきと描かれている。制作されたこの年は、昭和戦前期、関東大震災の復興からやがて暗転する時代の狭間のなかの東京の街がモチーフである。「大正ロマン」という言葉があるのならば、「昭和モダン」ともいえそうな、つかの間の「平和」と「繁栄」の時代である。

一方、この桐生という街は、明治以降幸いにして大きな自然の災禍もなく、また戦中期には空襲もなかったようだ。そのためか、昭和戦前期からの建物が市内にいくつも残されている。昨年のこと、その代表的なひとつである「桐生織物記念館」を訪ねてみた。木造ではあるが、外壁はスクラッチタイル貼りで2階建ての立派な建物である。1934(昭和9)年に竣工し、現在では国の登録有形文化財になっている。1階は展示販売場、2階は織物資料展示室になっていて機織体験もできる。その2階の展示室は、200人も収容する講堂として使用されていたとされ、木造ながら柱のない大きな空間づくりは見事だとおもった。そして堂々たる外観を見あげると、往時は繁栄し織都を名乗るだけのことはあると納得した。同時に、竣介の作品が描かれて80年になるけれども、ほぼ同じ時間をこの記念館も経てきたことに気づいた。そして絵画のなかの街のイメージと、現実にある



桐生織物記念館

記念館、その両方がシンクロするような体験をした。絵画のなかの「昭和ロマン」と桐生に残された「昭和ロマン」、その両方をこの地では体験できるのではないかとおもった。いつか松本竣介の「街」をテーマに、桐生の街歩きをいっしょにしてみるような展覧会ができないだろうかとおもっている。そこで、今回は、「昭和ロマン」をつたえる市内のいくつかの建物を見てまわることにしたい。

### 【西桐生駅】



上毛電気鉄道西桐生駅

JR桐生駅から、北にむかって徒歩5分、セブンイレブンのある交差点まで来たら、上毛電気鉄道(上電)西桐生駅がある。この駅舎は、昭和3(1928)年の開業当時からあって、国の登録有形文化財になっている。また、上電は、東京の方にはなつかしい井の頭線の車両(2両連結)がまだ現役である。ここまで来たら、もう大川美術館の白い建物が見える。幼稚園の裏の「近道」と書いてある細くて急な坂道、途中から階段になって、ドッコイショとのぼれば到着。

### 【水道山記念館】

さらに、大川美術館の前の坂道をもうすこし上っていくと水道山記念館がある。(美術館から徒歩3分)この建物は、1932(昭和7)年、桐生市に水道が創設された時に、配水場事務所として建てられたもので、現在、国の登録有形文化財になっている。「事務所」といっても、当時は偉い人が勤めていたのだろうか、なか

なか立派で、玄関ホールや眺めのいいテラスは、無料でご覧になれる。



水道山記念館

### 【絹襴記念館】



絹襴記念館

J R 桐生駅南口から徒歩2分。ピンク色の2階建ての洋館で、創建は1917（大正6）年である。ここ一帯は、戦前には日本絹襴株式会社として日本最大の襴糸工場だったそうだ。その工場の事務所棟だけが残り、現在では、桐生市近代化遺産として絹襴記念館となっている。背の高いビジネスホテルや、駐車場に囲まれてポツンとたたっている様子から、わたしは、絵本『ちいさなおうち』（バージニア・リー・バートン、石井桃子訳、岩波書店）に描かれた「ちいさなおうち」のイメージとかさなってしまう。しかし周囲の都市化、近代化のすすむなかでとり残されてしまったような、この桐生の「ちいさなおうち」洋館は、織物産業や高校野球などの郷土の資料を展示する施設として今も大切に保存され

ていることがわかる。

### 【桐生倶楽部】

ピンク色の絹襴記念館に対して、陽の光をうけてオレンジ色に輝くのが桐生倶楽部の建物である。JR桐生駅から東へ10分ほど。一般社団法人桐生倶楽部のための社交の場として、1919（大正8）年に創建。木造2階建て、現在では国の登録文化財となっている。敷地の片隅に建てられた案内板によれば、「スパニッシュ・コロニアル様式を基調とした南欧風の建物」と書かれている。建築の様式のことはわからずとも、「瀟洒な洋館」という言葉がピッタリのたたずまいだ。織物業で繁栄したモダン桐生のシンボルともいえる。大川美術館からのお帰りの「昭和モダン」散策の街歩きときには、ぜひ立ち寄ってご覧いただきたい。公開施設ではないが、職員の方にお願ひすれば建物内部も見せてもらえるかもしれませんので。



桐生倶楽部

### 【第一勸業銀行桐生支店】

市内の本町五丁目交差点にかつてあったのが、第一勸業銀行桐生支店である。1915（大正4）年創建、外壁はレンガ積みの木骨構造の2階建てであったという。1972（昭和47）年に取りこわされ、残された絵はがきをみると、とても風格のある立派な洋館だったようで、いかにも惜しい。現在では、同じ場所に桐生ガスプラザがあり、その南側には、レンガの塀がのこされているのだが、ひょっとして銀行の建物の外壁の

一部なのだろうか。



第一勸業銀行桐生支店（絵はがきより）

さて、市内で「昭和モダン」をさがせば、ノコギリ屋根の織物工場など、まだまだあるのだが、キリがない。そこで最後に一言申し上げたい。ここでとりあげた建物は、いずれも現役である。文化財として保存、公開するだけではなく、たとえば「金善ビル」のように、今も飲食店などが営業して活用されているからおもしろいとおもう。はじめに書いたように、松本竣介の「街」をきっかけに、桐生市内を歩いてまわるような、あるいは、市内を散策してから美術館を訪れてもらえるような展覧会を、これから考えてみたいとおもっている。

（大川美術館館長）

### 【金善ビル】



金善ビル

本町通りを五丁目から北に向かって歩いていくと、すぐに周囲の建物と雰囲気がちがった古いビルがある。今では「小さいながらも」と形容したくなるが、昭和初期、木造づくりの街並みのなかでは、ひときわ目立つモダンなビルだったのだろう、これが「金善ビル」だ。まさに竣介の「街」のなかに描かれたビル—「昭和モダン」を目にすることができる。創建は大正期（1921年頃）といわれ、地上4階、地下1階。現在では、「地方都市における初期鉄筋コンクリート造事務所ビルの好事例」（文化庁「文化遺産オンライン」より）と評されて、国の登録有形文化財になっている。



松本竣介《街角》1946年頃

## コレクションによるテーマ展示

### — 花の饗宴 —

1月4日(木)～3月25日(日)  
展示室 5

当館のコレクションによる「花」をモチーフにした作品を選びすぐり展覧します。

四季折々のすがたを表現した日本画にみる「花」から、「花」に託されたメッセージを読み解く絵画、近代の洋画家たちが卓上の「花」にむけた視線、名もなき「花」のイメージを独自の表現でとらえた作品にいたるまで、さまざまな「花」をご覧ください。

なお本展では、円熟味極まった上村松園(1875-1949)、晩年期の作《初雪》を特別出品いたします。新春にふさわしい気品と華やきをご堪能いただけましたら幸いです。

また、現在常設展示室内でも「花」の作品を紹介しております。美術館のなかで先取りの春をおたのしみください。

〔出品作家〕

伊東深水、上村松園、奥村土牛、小倉遊亀、加山又造、川合玉堂、熊谷守一、南城一夫、藤島武二、中川一政、三岸節子ほか、全約30点

#### ◆ 関連事業

・「ミニコンサート」

ヴァイオリン：菊地 理恵

日時：3月17日(土) 12時～12時50分

会場：大川美術館 レクチャー室

※ 要申し込み。

入館料のみでご参加いただけます。



三岸節子《赤い花》  
1985年頃

### — 庭をながめれば —

4月10日(火)～6月17日(日)  
展示室 5

古来より人々はさまざまな「庭」をつくってきました。「庭」の環境や日当たりを気にしながら、そこに即した植物や樹木を植えて集めました。「庭」は、いつでも人の手が加えられる場所として、そして、それゆえに人々の理想郷としての存在であり続けてきたのかもしれませんが。

一方で、ある限られた空間のなかに作られるという点からみると、「絵画」は「庭」にも似たようなもの、といえることもできましょう。本展では、当館コレクションのなかから画家たちの描いた「風景」を試みに「庭」という意識でみると、そこにどのような「ながめ」が見えてくるのか、また、画家にとって「庭」は、どのような場所であったのか、それぞれの画家が「庭」をながめ描いたまなざしに思いを馳せてみたいとおもいます。

萬鐵五郎の土沢、湘南時代の風景画から、彼がみてきた土や砂によせた思い、木村莊八の自宅の庭の一隅がモチーフになった作品、川口軌外の滞欧期、息子と遊んだ郊外での一コマ、富本憲吉が「模様から模様を作らず」といって野外の草花に取材した自画自摺の木版画、その場所の空気を体感させる高山辰雄の作品、自然と芸術の関係を静謐な線で表出させた若林奮の銅版画など、多彩な作品の数々を紹介いたします。

大川美術館の各階のフロアや窓、カフェやテラスからは、新緑の「庭」がたのしめます。移ろう「庭」をまぢかに感じながら、その館内で、描かれた「庭」をながめれば、どのような「庭」との出会いが待っていることでしょう。

(小此木)



川口軌外《息子・京村のいる風景》1927年頃

## 回 大川美術館活動の記録

10. 21 第27回 美のパーティー (当館)  
薩摩琵琶 友吉 鶴心 氏
11. 5 友の会研修旅行 ～秋深まる新潟の旅～  
新潟・長岡方面
- 8 明照学園樹徳高等学校 1年生 来館
- 9 〃
- 10 〃
- 26 新潟市立美術館 他「没後90年 萬  
鐵五郎」展より 作品返却
- 29 明照学園樹徳高等学校 1年生 来館
12. 15 桐生市立南小学校 3年生 来館
- 17 展示替え
- ～27 〃
- 20 桐生市立南小学校 5年生 来館
1. 4 コレクションによるテーマ展示  
「花の饗宴」展 開催 3.25まで



友の会研修旅行 バスで出発



花の饗宴展にちなみチョコレートかけの  
花ばんと飲み物のセットが期間限定で登場

- 12 対談「父・登之、兄・育夫を語る」  
お話し：中野 富美子 氏  
(清水登之 長女)  
聞き手：杉村 浩哉 氏  
(栃木県立美術館 学芸課長)
- 22 明照学園樹徳高等学校 1年生 来館  
〃 朝日新聞本社 取材
- 24 明照学園樹徳高等学校 1年生 来館

- 5 桐生商工会議所 新春互礼会  
田中館長出席 (桐生市)
- 20 新春講演会2018「描かれた女性と着物  
－近世風俗画の視点から」  
講師：江村知子先生(東京文化財研究所  
文化財情報資料部 文化財アーカイブズ  
研究室長)



桐生市立南小学校3年生のみなさん



講師：江村知子先生